

令和8年度  
発生予察情報

## 発生予報第2号（概要版）

令和8年5月21日発行  
宮城県病害虫防除所  
(TEL:022-275-8982)

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
りんご	斑点落葉病	発生量: 平年並	モモシクイガ	発生量: 平年並
なし	黒星病	発生量: 平年並	—	—
きゅうり	べと病	発生量: 平年並	ハダニ類	発生量: やや多
トマト	うどんこ病	発生量: 平年並	アザミウマ類	発生量: 平年並
	アブラムシ類	発生量: 平年並	コナジラミ類	発生量: 平年並

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>  
次回、発生予報第3号の発行日は令和8年6月24日(水)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ  
トップページ 登録フォーム

## ー6月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月 12～15 日

天候予報:仙台管区气象台5月 14 日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 前年の発生量は平年より多かったことから、伝染源量も多いと推測される。( /+)
- (2) 巡回調査の結果、発病は確認されなかった。( /ー)
- (3) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( /+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。( /±)

病害虫名	発生時期	発生量
モモシクイガ	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 前年の発生量が平年並だったことから、越冬量は平年並と推測される。( /±)
- (2) 20～25℃の気温が成虫の産卵に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( /+)

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒して降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・DMI 剤(FRAC コード:3)、QoI 剤(FRAC コード:11)及びSDHI 剤(FRAC コード:7)並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年間2回以内の使用とする。
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

#### (2) 斑点落葉病

- ・本病は、感染から発病までの潜伏期間が数日から7日程度と短い。防除間隔があきすぎないように、定期的な予防防除に努める。

#### (3) ハダニ類

- ・ハダニ類の越冬量が多かったほ場では、早期から寄生密度が高くなる傾向にあるので、樹冠内部をよく観察し、1葉当たり3頭以上寄生している場合は防除を実施する。

#### (4) アブラムシ類

- ・発生が見られる場合は、他の害虫との同時防除とするが、寄生種により防除効果の高い薬剤を選定する。また、発生状況によっては追加防除を実施する。
- ・薬剤防除を行う際は、新梢等の寄生部位まで薬剤が行き渡るように散布する。

#### (5) 果樹カメムシ類

- ・摘果作業時にはほ場内を注意深く観察し、被害果実を見つけ次第摘果するとともに、ほ場への飛来数が目立つ場合は、カメムシ類に登録のある農薬を散布する。
- ・フェロモントラップ調査結果を参照する <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/trap.html>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## ー6月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月 12～14 日

天候予報:仙台管区気象台5月 14 日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	平常並

#### 予報の根拠

- (1) 前年の発生量は平常より少なかったことから、伝染源量は少ないと推測される。( /ー)
- (2) 巡回調査の結果、発病は確認されなかった。( /ー)
- (3) 多雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平常並と予報されている。( /±)

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平常並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず  
 発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平常並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒して降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・本県では現在まで DMI 剤 (FRAC コード:3)、QoI 剤 (FRAC コード:11)、SDHI 剤 (FRAC コード:7) の耐性菌は確認されていないが、今後もこれらの混合剤を含めた使用は、それぞれ年2回以内とする。
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

#### (2) 黒星病

- ・過繁茂にならないように新梢を管理するとともに、伝染源となる果そう基部病斑(図1)、発病葉(図2)及び発病果(図3)の早期発見・除去に努め、ほ場外に持ち出して土中深く埋めるなど適切に処分する。
- ・本病の感染から発病までの潜伏期間は 14～30 日とされている。防除間隔があきすぎないよう、定期的な予防防除に努める。



図1 果そう基部病斑



図2 葉脈の病斑



図3 果実病斑

### (3) アブラムシ類

- ・発生が見られる場合は、他の害虫との同時防除とするが、寄生種により防除効果の高い薬剤を選定する。また、発生状況によっては追加防除を実施する。
- ・薬剤防除を行う際は、新梢等の寄生部位まで薬剤が行き渡るように散布する。

### (4) 果樹カメムシ類

- ・摘果作業時にはほ場内を注意深く観察し、被害果実を見つけ次第摘果するとともに、ほ場への飛来数が目立つ場合は、カメムシ類に登録のある農薬を散布する。
- ・フェロモントラップ調査結果を参照する <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/trap.html>

#### 《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## ー6月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月12～14日

天候予報:仙台管区气象台5月14日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年並であった。( / ± )
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや多

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年より高かった。( / + )
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / + )、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- ・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

#### (2) うどんこ病

- ・肥料切れや着果過多、樹勢の低下は発病を助長するため、適切な栽培管理を行う。

#### (3) べと病、褐斑病

- ・多発してからの防除は困難なので、発病前から計画的に系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- ・多湿や昼夜の温度差で結露量が増えると発病が助長されるため、過繁茂とならないよう老化した葉などはできる限り除去し、通風と薬剤の付着性を高める。

#### (4) ハダニ類

- ・気温の上昇とともに発生量が増加するため、早期発見及び早期防除に努める。

- ・多発すると1回の薬剤散布のみでは散布ムラ等で十分な効果が得られない場合があるので、薬剤散布の3～5日後にハダニ類が寄生していた場所を観察し、虫の有無や薬剤の効果を確認する。効果が見られなかった場合は、気門封鎖剤も含めて系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム

## ー6月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月 12～14 日

天候予報:仙台管区气象台5月 14 日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。( / ± )
- (2) 温度 18～28℃が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。( / - )
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / + )、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。( / - )
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く( / + )、降水量はほぼ平年並と予報されている。( / ± )

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	ー	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。( / - )
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。( / + )

#### ※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

### 2 防除のポイント

#### (1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm 目合い)を設置する。
- ・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。

- ・植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるの  
で、適切に栽培管理を行う。病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- ・訪花昆虫を利用する場合は、訪花昆虫の影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を  
行う。

## (2)うどんこ病

- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

## (3)アザミウマ類

- ・野外では5～7月の各種雑草の開花期に発生量が多くなるので、施設内への飛込に注意する。また、ほ場周辺の  
除草に努める。
- ・卵から成虫までの発育期間は25℃で約14日であるので、発生が多い場合は、7日間隔で2～3回 RAC コードの  
異なる薬剤をローテーション散布する。

## (4)アブラムシ類

- ・多発すると排泄物(甘露)によるすすが発生するため、ほ場をよく見回り、施設内への侵入防止と発生初期からの  
防除を徹底する。

## (5)コナジラミ類

- ・主に葉裏に寄生し吸汁加害するので、ほ場をよく見回り早期発見、早期防除に努める。多発時は卵、蛹、成虫が  
混在するため、7日間隔で RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻病を媒介するので注意する。また、黄化葉巻病が発生したほ場は、栽培終了後  
に施設を密閉し、ウイルスの媒介虫を死滅させる。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム